

つぎの 文しょうを 読んで、もんだいに 答えましょう。

わたしたちは、きせつによって、きるふくをかえています。夏にはうすいふくを、冬にはあついふくをきます。どうしてでしょうか。

夏は、とてもあついきせつです。うすくて、風がよく通るふくをきると、体のあつさが外へにげていきます。また、白や水色など、明るい色のふくは、日の光をはねかえすので、あつくならないのです。

冬は、さむいきせつです。あつくて、あたたかいふくをきると、体のあたかさがにげにくくなります。セーターの上にコートをかさねてきるのも、ふくとふくの間に、あたたかい空気をためるためです。

ぼうしや手ぶくろも、きせつに合わせてえらびます。夏のぼうしは、日の光から頭をまもります。冬の手ぶくろは、つめたい風から手をまもります。ふくは、きせつに合わせて、わたしたちの体をまもってくれているのです。

(このもんだいのための書きおろし)

(一) 夏には、どんなふくをきるとよいと書いてありますか。文しょうから十五字までで書きぬきましょう。

(二) 明るい色のふくが、あつくならないのはなぜですか。ア～ウから一つえらびましょう。

ア 風をためるから。

イ 体をあたためるから。

ウ 日の光をはねかえすから。

--

(三) セーターの上にコートをかさねてきるのは、何のためですか。「ため」につくように、文しょうから二十字までで書きぬきましょう。

(四) 夏のぼうしと冬の手ぶくろは、それぞれ何から、どこをまもりますか。三十文字までで書きましょう。
